

日本のテラコッタ建築 ～大正・昭和初期の装飾の保存と公開

2013/05/30
株式会社LIXIL
INAXライブミュージアム

1. INAXライブミュージアムについて

『INAXライブミュージアム』は、住まいと暮らしの総合住生活企業である株式会社LIXILが、やきものの街、常滑で運営する文化施設



“観て、触れて、感じて、学び、創りだす”をコンセプトにしたこの施設は、1986年の「窯のある広場・資料館」から始まり、「世界のタイル博物館」「陶楽工房」「土・どろんこ館」「ものづくり工房」と整備を進め、2012年4月に「建築陶器のはじまり館」をオープンした。

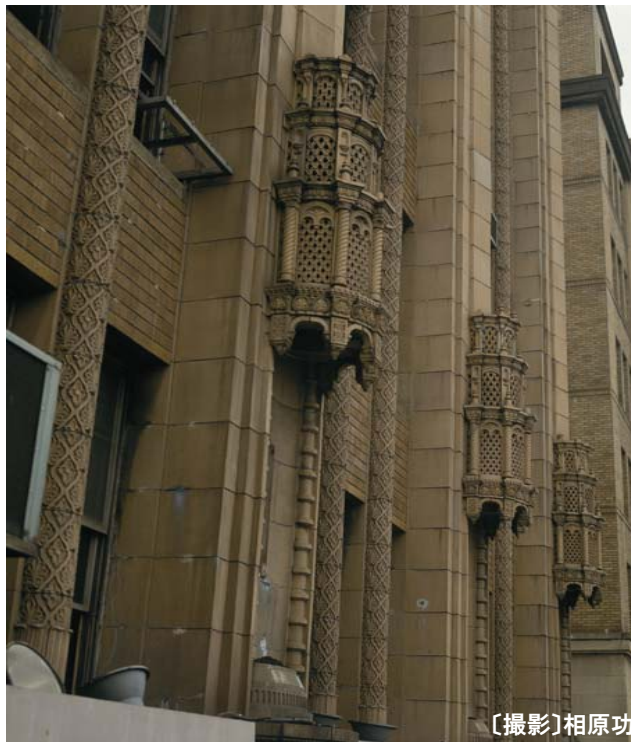
2. テラコッタとは

テラコッタは「焼いた土」という意味のイタリア語だが、建築の世界では一般的に建築に取り付ける大形のやきもの装飾材を指す。

日本では、1923(大正12)年の関東大震災以降、耐震性に優れる鉄筋コンクリート造建築の普及とともに、主にその外壁装飾材として数多く作られた。

当時、テラコッタや外装タイルが施された「テラコッタ建築」は、日本の新しい建築を代表するものであり、震災からの復興のシンボルでもあった。

しかし太平洋戦争を機に、そのような装飾性の高い建築は姿を消し、モダニズムの潮流に押されて復活することなく、短い時代を終えた。



〔撮影〕相原功



朝日生命館(旧常盤生命館)
設計 国枝 博
竣工 1930(昭和5)年
解体 1980(昭和55)年
テラコッタ制作 大阪陶業

3. 装飾の時代を担ったテラコッタの収集

建築のスクラップ & ビルドが進む中で、LIXIL(旧INAX)ではテラコッタ建築の価値を次代に伝える大切さを認識し、関係者の理解と協力を得ながら、1970年代後半からテラコッタの収集・保存を継続的に行ってきた。

これまで収集したテラコッタはおよそ40物件、240ピースに及ぶ。

テラコッタの収集と保存(建築陶器のはじまり館展示物件)

	建物名称	建築年	和暦	解体年	和暦	設計	施工	テラコッタ製造
1	京都府立図書館*	1909	明治42	2001	平成13	武田五一	直営	久田吉之助
2	日本工業倶楽部会館*	1920	大正 9	2003	平成15	横河工務所(松井貫太郎)	清水組	不詳
3	帝国ホテル旧本館(ライト館)	1923	大正12	1967	昭和42	F.L..ライト	直営	直営工場
4	新橋演舞場	1925	大正14	1979	昭和54	菅原栄蔵・小倉強	戸田組	日本陶業
5	大同生命ビル	1925	大正14	1988	昭和63	W.M.ヴォーリズ建築事務所	竹中工務店	アトランティック社
6	大阪ビル1号館	1927	昭和 2	1986	昭和61	渡辺節建築事務所(村野藤吾)	竹中工務店	大阪陶業
7	横浜小学校(現横浜市立港中学校)	1928	昭和 3	1981	昭和56	横浜市建築課	大倉土木	伊奈製陶
8	大日本製薬	1930	昭和 5	1986	昭和61	宗建築事務所	竹中工務店	伊奈製陶
9	武庫川女子大学甲子園会館(旧 甲子園ホテル)	1930	昭和 5	現存	...	遠藤新	大林組	大阪窯業
10	朝日生命館(旧 常盤生命館)	1930	昭和 5	1980	昭和55	国枝博	大林組	大阪陶業
11	朝日石綿工業	1930	昭和 5	1988	昭和63	森山松之助	清水組	不詳
12	建築会館	1930	昭和 5	1982	昭和57	矢部金太郎	大林組	伊賀窯業
13	名古屋銀行協会	1931	昭和 6	1984	昭和59	桃井保憲	大林組	伊奈製陶
14	警視庁庁舎	1931	昭和 6	1977	昭和52	大蔵省営繕管財局	藤田組、清水組	伊奈製陶
15	富山房	1932	昭和 7	1985	昭和60	佐藤功一	竹中工務店	大阪陶業
16	聖路加国際病院	1933	昭和 8	一部現存	...	A・レーモンド、バーガミニ	清水組	アトランティック社
17	大谷仏教会館*	1933	昭和 8	1983	昭和58	竹内緑建築事務所	直営	不詳
18	自治省庁舎	1933	昭和 8	2001	平成13	大蔵省営繕管財局	清水組	伊奈製陶
19	名古屋市庁舎	1933	昭和 8	現存	...	名古屋市建築課	大倉土木	伊奈製陶
20	横浜松坂屋本館	1934	昭和 9	2010	平成22	鈴木禎次建築事務所	竹中工務店	伊奈製陶
21	国会議事堂	1936	昭和11	現存	...	大蔵省臨時議院建築局	不詳	大阪陶業
22	東京大学医科学研究所(旧伝染病研究所)	1937	昭和12	現存	...	内田祥三	大林組、大倉土木	日本陶業

* 建築自体は解体されたが、建て替えた建築などにテラコッタが一部残されているもの

4. 収集したテラコッタの公開

1983年に伊奈ギャラリー(東京都)にて初めてテラコッタの企画展示を開催した。



1986年にはINAX ライブミュージアムにある「窯のある広場・資料館」(常滑市)でテラコッタ展を開催し、その後、常設展として、同施設でテラコッタの細部や釉薬などの鑑賞もできる展示内容で公開し続けてきた。



企画展
1986年



常設展



5. 建築陶器のはじまり館

2012年4月「建築陶器のはじまり館」を新たに建設し、フランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル日本館(ライト館)に使われたテラコッタをはじめ、近代日本の建築を彩ったテラコッタやタイルなどの貴重なコレクションを展示し、建築文化の歴史を広く公開している。



屋内展示

帝国ホテル旧本館柱形実物を中心に、明治時代につくられた初期のテラコッタから、関東大震災を経て1930年代の全盛期に至る、日本を代表するテラコッタ建築とその時代背景を、実物のテラコッタやパネル展示で紹介している。



屋外展示エリア“テラコッタパーク”

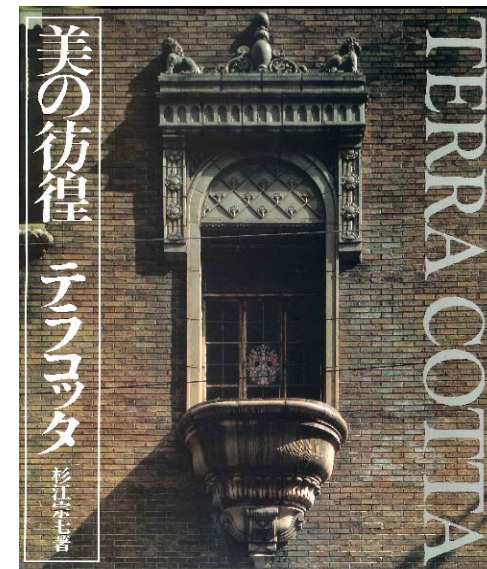
草花や幾何学模様、動物などの彫刻が施された13物件の大きなやきもの装飾—テラコッタを、当時の建築写真とともに展示し、青空の下、間近で鑑賞できる。

6. テラコッタの装飾美の伝達

今後取り壊されてなくなるかもしれないテラコッタ建築について日本各地を巡り、117物件の写真やその内容をまとめて、1983年、書籍『美の彷徨』を出版した。また同年、伊奈ギャラリー(東京都)で開催されたテラコッタの企画展示に合わせてブックレット『建築のテラコッタ・装飾の復権』も発行した。



発行 伊奈製陶株式会社



発行 伊奈製陶株式会社

2012年 テラコッタ装飾建築の写真、図面、5都市におけるテラコッタ建築の分布マップ等を新たに取りまとめ、『日本のテラコッタ建築～昭和・震災復興期の装飾』を出版した。



発行 LIXIL出版

7. タイル & テラコッタの復原と保存

長くタイル製造に携わってきた技術者から成る「ものづくり工房」では、テラコッタの復原や修復、新たなデザインによるテラコッタの制作などに取り組み、やきもの技術の継承と新たな技術開発に努めている。



商標の復原



テラコッタの修復



【事例】横浜松坂屋本館

増築竣工 : 1934(昭和9)年
 設 計 : 鈴木禎次建築事務所
 施 工 : 竹中工務店
 テラコッタ制作 : 伊奈製陶

関東大震災から太平洋戦争に至る20年余り、鉄筋コンクリート造の普及に伴い、新たな時代の建築として注目を集めた「テラコッタ建築」。LIXIL(当時のINAX)では、失われつつある日本の「テラコッタ建築」の価値を認め、これまで継続的にテラコッタを収集・保存し、展示施設や出版物で広く公開してきました。

また、テラコッタの復原や修復にも取り組み、やきもの技術の継承にも努めています。

この活動に対し、LIXILが運営する文化施設『INAXライブミュージアム』が、2013年日本建築学会賞(業績)を受賞しました。この受賞を励みに、LIXILは日本の建築文化の歴史を後世に伝える役割の一端をこれからも担っていきます。